

刻む会 たより

NO. 71

2018 年 12 月 25 日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・木村道江

事務局 宇部市常盤町一―九（宇部緑橋教会内）

カンパ振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01590・7・32405

TEL 0836（21）8003

年会費 《正会員》個人3,000円 団体5,000円

《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ

メール

http://www.chouseitankou.com

kizamukai@chouseitankou.com

強制動員被害者遺骨問題解決のための国際シンポジウム

2018年11月6日 ソウル市

共同代表 井上 洋子

ついに、民間労働者遺骨問題の歴史的な国際会議が開催された。韓国政府傘下の「東アジア歴史財団」や南北統一問題に取り組む韓国団体「民族和解協力汎国民協議会（民和協）」「民族問題研究所」の3団体の共催で開催され、日本からも「強制動員真相ネットワーク」や遺骨奉還に長年市民の情熱で関わってこられた北海道や沖縄をはじめとした方々と共に、「刻む会」も招待され、事務局長の小畑太作氏と共に出席した。

おりしも、10月30日、新日鉄が植民地支配下で行った強制連行・強制労働の被害者である元徴用工の損害賠償を求めた裁判で、韓国大法院が日本企業の法的責任を明確にし、被害者の権利回復と賠償を命じた歴史的な判決を下し、日本の植民地支配の実態や責任のあり様が根本から問われる状況の中で開催となり、このシンポジウムに対

しても韓国マスコミの関心は高く注目を集めていた。

6日午前、会議に先立つわずかな時間だったが、ソウル市にある「西大門刑務所歴史館」を訪れた。植民地時代に祖国の独立を勝ち取ろうと命を捧げた独立運動家たちを弾圧、拷問、獄死に追いやった施設であり、戦後も民主化闘争を闘う韓国の人々を収監し、抑圧した現場だった。拷問施設や死刑場、死刑にされた独立運動家の屍を密かに運び出したという秘密の通路などもそのままだとされており、一般の市民はもとより、先生に連れられた小学生たちも多く見学に訪れていた。

午後1時から7時までは遺骨問題の歴史的な研究や各地からの取り組みの発表など濃密なシンポジウムとなった。韓国政府から直接の参加はなかったが、政府傘下の「東アジア歴史財団」の南相九（ナムサング）所長は、「遺骨問題は植民地被害がまだ続いていることを示すものであり、南北、そして日本が共に解決しなければならぬ課題である」と述べ、被害者とその遺族の尊厳

性を回復するという人道主義的観点を堅持し、日本側との交渉のためには単一の窓口が必要であるため、「南北政府＆南北民和協＆日本市民団体」を基本とした『日朝韓強制動員被害者遺骨調査及び奉還推進委員会』の結成をめざすことを明らかにした。

民族問題研究所の趙時顕（チヨシヒョン）氏は、遺骨問題はただ人道主義の側面での問題を超えて、国際人道法と国際人権法を基本的な指針として遵守されていく戦略を持つべきだと法的観点の必要性も説き、貫くべき原則は死者に対する尊厳に尽きると結んだ。

さらに「東京朝鮮人強制連行調査団」西澤清氏報告、「太平洋戦争史館」館長岩淵宣輝氏、「強制動員真相究明ネ

강제동원 피해자 유골 문제 해결을 위한 국제심포지엄 | 2018년 11월 6일(화) 13:00-19:00 | 동북아역사재단 11층 대회의실



シンポジウムの様子

「ネットワーク」竹内康人氏、「遺骨奉還宗教者市民の会」共同代表殿平善彦氏、沖縄の遺骨調査の報告を具志堅隆松氏と、日本側の報告が続いた。

実践報告の最後に小畑事務局長が「刻む会」の活動の経過を説明し、長生炭鉱遺骨問題の抱える困難性と「今為すべきことを見出して為していく」という決意を表明し、国際シンポジウムという機会を得た多くのつながりを今後の活動につなげていきたいと述べた。

シンポジウムは自由討論という形で締めくくりに迎え数人の発言があったが、父親の靖国合祀取消しを求めて日本の司法に提訴している李熙子（イヒジャ）さんが「たとえ遺骨がもどらなくとも、日本政府が最善を尽くす姿が見えない事に腹がたつ」と、参加されていた遺族たちの思いを代弁された。

翌日、インチョン空港に出立する前1時間程だったが、今年8月29日に開館した「植民地歴史博物館」に立ち寄ることができた。日本の侵略戦争に加担した親日派の行為、輝かしい抗日闘争の歴史を記録し展示する韓国初の日帝独占期専門博物館として、韓日市民の募金でできた施設で、長生炭鉱のパンフレットも展示して頂いていた。

今回のシンポジウムを通じて、長生炭鉱の遺骨問題に関してもようやく国際的なつながりが広がり、日本の小さな市民運動団体はここを大事にしなが、南北政府と市民運動の力を長生炭鉱遺骨発掘返還の解決に向けて結集するために、精力的に頑張っていきたいと思った。

韓国水谷寺での吉岐遭難者慰霊祭

遺骨奉還宗教者市民連絡会

世話人 小林知子

10月11日に慶州水谷寺での吉岐遭難者慰霊祭には、日本からは天徳寺の西谷氏をはじめ、地元吉岐、北海道、九州の曹洞宗からの僧侶23人および、吉岐や長崎の市民、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会のみなさん等、30数名が参加しました。

韓国からは、水谷寺の信徒を含むみなさん、仏国寺をはじめとする各地の曹溪宗寺院、蔚山地区寺院連合の僧侶のほか、民和協代表の金弘傑（キムホンゴル）氏代理（共に民主党）国民統合委員会諮問委員ナムソ（ナムソ）氏、崔鳳泰（チェボンテ）弁護士（元日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会事務局）や、浮島丸号事件遺族会副会長ハンヨソヨソ氏、長生炭鉱犠牲者遺族の楊（ヤン）副会長と孫（ソン）事務局長、先日吉岐に来られたNGOのキョレハナの蔚山本部のチョンヨソヒさん等々、各界の方々が集まりました。

人数は数えませんでした。朝日記事の80人から考えると、韓国側からは40名程の参加があったのだと思います。曹溪宗関係者以外の韓国の方がこれだけ来られた点は一昨年前の水谷寺での法要時とは異なることで、吉岐の遺骨奉還をめぐる課題が、あらたな段階に動いていることを実感することになりました。

式進行自体は例年通り、行われました。水谷寺孫慈嚴住職、天徳寺西谷住職、仏国

寺李性陀会主のご挨拶では、5月末に吉岐にご遺骨が移ったことに対する感謝とともに、ご遺骨の1日もはやくの祖国奉還をあらためて望む内容となりました。

飛び入りのかたちで代読された民和協代表・金弘傑（キムホンゴル）氏の追悼文では、11日に犠牲になった子どもから老人までの帰国に期待をふくらませながらも亡くなった168名に対して、浮島丸号などの犠牲者と異なるといえるのか、植民地下における死という点で同じだ、あらゆる方々の犠牲を慰霊し祖国に遺骨を奉還することが、生きている私たちの義務だと思う、という趣旨が述べられました。



個別にそれぞれ交流や意見交換がなされ、貴重な機会となりました。生存者の息子さんご夫婦も列席されました。そのお父様（生存者）は、戦前、小倉陸軍工廠に徴用されていたのですが、偶然、同じ時期に同じ場所（しかも、生存者の息子さんと同じ年）との出会いもありました。お父様同士が知り合いだったということでは全くありませんが、御縁を感じた一幕でした。

特別な意見交換会等とはもと予定されていなかったため、長生炭鉱のことを参加者の方々に話す機会等はなく残念でしたが（開始時刻等の点で、当日宇部から来られた井上さん、小畑さんには、重ねてご苦勞をおかけすることになりました）、パンフレット等を通じて、この問題を知った僧侶も少なくなかったと思います。また、以前より長生炭鉱の問題をご存じな韓国の方々も多くおられるなかで、一緒に、水谷寺での慰霊祭に参加でき、大変ありがたく思いました。（私は単なる参加者の一人にすぎず、私がいなのは筋違いにも思います。が、ご参加くださり遺族会の方とご同行くださり、個人的に大変に感謝しています。）水谷寺のみなさんには、立派な慰霊祭の挙行や、心づくしのお茶やお菓子、お食事など、ほんとうにお世話になりました。心から感謝申し上げます。また、天徳寺の西谷住職も、今回も日本からの大勢の参加をお世話いただき、大変に感謝しております。有意義な一時に参加させていただき、どうもありがとうございました。

追記

韓国遺族会と共に参加して

共同代表 井上 洋子

戦後解放を迎え帰国をしようと船に乗り台風のために遭難して、吉岐の島に打ち上げられた方々の韓国「水谷寺」での法要に遺族会の楊副会長と孫事務局長と共に参列した。植民地支配の果てに日本に連れて犠牲となった方々の法要に、長生炭鉱韓国遺族会の方々と参加できたことは意義あることだったと思う。

慰霊祭を終えて、遺骨返還を巡る状況の変化と今後の政府交渉について遺族会代表と話し合いがもたれ、また、来年の追悼式の在り方等についても意見交換ができた。来年2月の追悼集会は遺骨発掘・返還に向けた私たちのさらなる決意を固める場であり、日本と朝鮮半島の市民運動の流れが「長生」を軸に集まれる場になればと願っている。

またこの訪韓を機会に、追悼のためにご尽力頂いている観音宗の方々と話し合いの場がもたれ、来年2月の追悼式とは別の日程で観音宗独自の追悼式を執り行うことが決定した。もちろん、「刻む会」も全面的にお手伝いすることを約束した。



活動日誌

（前回たより以降）

※太字：詳細は記事にて紹介

- 9/30(日)「小野田市」宇部・女性同盟（チンダール）総会
- 10/2(火)「宇部市」第41回長生炭鉱問題解決協議会
- 10/3(水)「広島市」2018年国慶日レセプション
- 10/11(木)「13(土)「韓国・水谷寺他」吉岐・対馬遭難朝鮮人遺骨 韓国慰霊祭と遺族会との懇談会等
- 10/21(日)「広島県・安野」第11回「中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い」
- 10/28(日)「宇部市」第8回運営委員会
- 11/6(火)「韓国・ソウル」強制動員被害者の遺骨問題の解決のための国際シンポジウム
- 11/10(土)「大阪市」遺骨奉還に関する意見交換会
- 11/10(土)「11(日)「阿川」いきいきフォーラム
- 11/16(金)「宇部市」『新聞 赤旗』日曜版の取材対応
- 11/16(金)「宇部市」「長生マダン」事前打ち合わせ
- 11/21(水)「山口市」第9回部落解放・人権確立をめざす県民のつどい
- 11/22(木)「宇部市」第9回運営委員会
- 11/23(金)「宇部市」宇部市共産党市議団との協議実施
- 11/23(金)「宇部市」炭鉱の語り部講座 第3弾「宇部炭田を知ろう」
- 11/28(水)「宇部市」健文会主催・ミニ平和フェスタ2018の「平和の願い 私的主張」にてアピール
- 12/12(3月)「東京」第2回国政府との交渉
- 12/12(火)「山口市」山口県議会・商工観光委員会にて共産党・木佐木大助県議が長生炭鉱問題について質問
- 12/27(金)「宇部市」宇部市議会にて時共産党・時田洋輔市議が文化財について質問
- 12/21(金)「宇部市」第10回運営委員会

遺骨奉還宗教者市民連絡会に参加して

11月10日 大阪市

共同代表 井上 洋子

ソウルで開催された国際シンポジウムを受け、日本で遺骨問題に関して活動している皆さんが大阪で10日（土）2時から会合を持った。最初に崔善愛（チェソンエ）さんの語りとシヨパンのピアノ演奏があった。チェさんは在日3世で指紋押捺拒を自らの人生をかけて実力で闘った方であり、父親は九州の牧師で筑豊の遺骨収集返還に尽力され、姓名の朝鮮語読みを裁判に訴え負けはしたが、実質勝ち取った方だ。シヨパンはポーランド人であり、ロシアの迫害と闘う中で音楽を通してポーランドの悲しみ、苦しみ、闘いを訴えたと話され、しばし、シヨパンの世界に引き込まれた。

続いて会議に入った。会議には各地で遺骨問題をはじめ、戦時補償問題や在日の闘い支援など、地元関西はもとより福岡、広島、岐阜等約30名が参加された。

北海道の殿平善彦氏より、キャンドルデモに参加した経験や動き出した朝鮮半島の平和の動きをどう見るべきかと提起があった。また、北海道の遺骨を殿平さんと一緒に掘り起こしたという青年たちも参加していた。来年2月には沖縄の遺骨第1次発掘を朝・韓・日の青年で取り組もうと具体的な行動も提案された。

長生炭鉱の遺骨問題もわずかな時間ではあったが、12月3日の政府交渉、2月16日の追悼式アピールをさせて頂いた。

朝鮮半島の統一に向けた流れの中から強制労働遺骨問題も焦点が当てられ、国際シンポジウムの開催を契機に市民運動レベルのつながりができて、長生炭鉱の遺骨問題も横のつながりの中にしっかりと組み込まれたように思う。

まずは、日本各地のお寺に納骨安置されているご遺骨から返還をという流れは当然ではあるが、しかし、それでは2005年の日本政府の遺骨調査から長生炭鉱の遺骨が除外されたときと同レベルに市民運動の側が陥ってしまう危険がある。長生炭鉱の遺骨が海の底にあるという困難性はある。とも、当然お返ししなくてはならない遺骨であり、また犠牲者の身元が判明していること、韓国遺族会の存在等を最大限考慮するならば、現に存在するご遺骨同様、緊々の課題として政府レベル、市民運動レベルで解決に向けて動き出すことを強く願っている。



書籍のご案内

事務局で取り扱っている書籍のご案内です。ご希望の方は、事務局までご連絡ください！

真相究明ネットワーク発刊
「明治日本の産業革命遺産」と強制労働
500 円



証言資料集 全3冊
絶賛！好評発売中！
頒布価格 1冊 300 円
2冊セットで 500 円
3冊セットで 700 円



韓国・真相糾明委員会発刊書籍

←『日本の長生炭鉱水没事故に関する報告書』
ご希望の方はカンパ 1000 円でお送りします。

『委員会活動結果報告書』（日本語版）→
ご希望の方は、カンパ 300 円（送料込）でお送りします。



「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」主催の集いに参加して

1918年10月21日

広島県山県郡安芸太田町坪野

「中国電力安野発電所」

会員 西森 邦子（広島県呉市在住）

太平洋戦争の末期、日本では多くの若者が兵士としてかり出されたため、労働力が大幅に不足した。足りない労働力を補う為、石炭、土建、港湾などの業界団体は、中国人を使うことを政府に要請した。東条秀樹内閣は、1942年に「華人労働者内地移入に関する件」を閣議決定し、これにより1943年から約4万人の中国人を日本に強制連行し、その内約7000人が虐待や栄養失調、事故等により故郷に帰ることなく命を落とした。

中国人を捕らえて中国各地に設置した収容所に集め、中国人を希望する企業は厚生省に必要人数を申請し、認可後は日本軍監視下のもと、中国の収容所から日本各地に連行した。

広島市安野の発電所建設工事には1944年4月に360人が割り当てられ、広島刑務所収監中の被爆死5人を含め29人が死亡した。

追悼集会には井上共同代表と共に参加したが、初めてということであまり緊張した。フィールドワークでは、落差65メートルの高さの貯水槽まで心臓破りの坂と言われる急坂を、満足な靴もなくほとんど裸足で登って行ったという当時の中国人を思いなが

ら皆さんと登った。発電所の職員も同行し説明を丁寧にして頂き、企業側が参加することには大きな意味があると感じた。

その後、現地「中国人受難之碑」前広場で中国人受難者を追悼し、平和と友好を祈念する集いが行われた。最高裁は2007年、中国人側が西松建設に賠償を求めた訴訟で請求を棄却したが、強制連行の事実を認めて異例の付言を付けて自主的な解決つまり和解を求めた。そして判決から2年、西松建設は①歴史的責任を認め謝罪②被害補償や記念碑建立等のために2億5000万円の基金を設立し、歴史的な和解が勝ち取られた。

集いでは、安芸太田町の町長や町会議員も参加されていた。小坂町長は「この強制連行の歴史的悲劇を関係者が互いに確認し・・・不幸な歴史を再び繰り返すことのないよう世界平和の実現に向け努力していく」と誓いのご挨拶をされたが、町をあげての追悼行事のとりくみはすごいと感動した。



中国電力安野発電所



故徐立伝さんのお孫さん
王小軍さん夫婦

広島刑務所で被爆し帰国後歯肉ガンを患い、日本で専門医の治療を希望していたが叶わず、1992年に70才で死去した故徐立伝さんのお孫さん王小軍さん夫婦が参列されていた。「現地に行きたいとおじいちゃんの思いが叶えられた事をうれしく思います」と話され、石碑に刻まれた祖父の名前を前に涙する姿にただただ心打たれた。皆さんの長年の取り組みの深さを感じ、参加して本当に良かったと思った。

韓国・大法院判決で元徴用工訴訟の判決が、10月には新日鉄住金、11月には三菱重工業と相次ぎ支払いを命ずる判決をしました。法的には、65年の日韓請求権協定で国と国との請求権は消滅してはいますが、個人の請求権は消滅していません。この安野の西松建設との和解をはじめ、鹿島建設（花岡事件）、三菱マテリアルも基金を設立し、被害者と向き合う努力をしています。誠実な対応こそ、被害の回復の第一歩だと思います。（山内）

運営委員会報告（2018年9月26日～2018年12月18日）

事務局長 小畑太作

【委員会会議開催】

- ① 第8回 10月19日（木）欠席3名。
- ② 第9回 11月22日（木）欠席1名。

【会員動静】

- ① 正会員105名（総会比+5名）
- ② 賛助会員234名（総会比+8名）
- ③ 寄付者93名（総会比+4名）

【77周年追悼集会】

- ① 内容について検討の上、諸事について打診調整。
- ② 案内チラシの作成。

【他団体との連携】

左記の行事に委員を派遣

- ① 9/30（日）「小野田」
宇部・女性同盟（チンダルレ会） 総会
- ② 10/3（水）「広島市」
2018年国慶日レセプション（@ホテルグランヴィア広島）
- ③ 10/11（木）～13（土）「韓国・水谷寺他」
吉岐・対馬遭難朝鮮人遺骨 韓国慰霊祭と遺族会との懇談会等。
- ④ 10/8（月）「飯塚市」（顧問を派遣）
第23回無窮花堂秋季追悼式
- ⑤ 10/21（日）「広島県・安野 中国人受難之碑前」
第11回「中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い」
- ⑥ 11/6（火）「韓国・東北歴史財団11階大会議室」
強制動員被害者の遺骨問題の解決のための国際シンポジウム
- ⑦ 11/10（土）～11（日）「阿川・阿鼓の里」
いきいきフォーラム
- ⑧ 11/10（土）「大阪・阿倍野市民学習センター」
遺骨奉還に関する意見交換会

- ⑨ 11/21（水）「山口市・山口県健康づくりセンター」
第9回部落解放・人権確立をめざす県民のつどい

【追悼ひろば】

- ① パンフレット設置の検討。
- ② パンフレット改訂版を検討。
- ③ 清掃実施。
- ④ 壁面空きスペースへの写真資料展示検討。
- ⑤ 展示壁面の安全性検討。

【証言・関係資料収集発行】

- ① 過去の炭鉱跡居住者1名と関係者1名への聴き取り作業検討。
- ② 映像と紙資料のデジタル化の作業継続。
- ③ 韓国出版『角が出た海』の日本語版出版作業継続。
- ④ 紙芝居「アボジは海の底」のオリジナル映像化作業継続。

【遺骨等収集】

データベース拡充について検討。

【学習会等】

- ① 10/28（日）「追悼ひろば他現地」
5.18民族統一学校FW受入。
- ② 12/15（土）「西法寺」
5月B-I-Y-P交流会参加の中学生を対象にした「長生マダン」開催。
- ③ 11/16（金）事前打ち合わせ実施。
11/16（金）「追悼ひろば他現地」
『新聞 赤旗』日曜版の取材対応。

【行政交渉】

- ① 12/3（月）「東京・参議院議員会館」
国政府との交渉（第2回）を実施。委員4名を派遣。
- ② 10/2（火）「宇部市総合福祉会館」
宇部市当局との第41回協議会開催

- （1）ピーヤの説明板設置 市教委より一部修正の打診を受け協議。
- （2）ピーヤ等の保存 当局は所有者不在を理由に文化史跡指定に難色。
- （3）追悼集会への協力 当局は従前を主張。
- （4）市民への教育 時間が無く協議なし。
- （5）遺骨等の収集と返還 当局は国の責任のみを主張。
- （6）追悼碑への協力 時間が無く協議なし。

- 第42回は2/20（水）10時「宇部市青少年会館3階視聴覚室」。
- ③ 11/23（金）「宇部市福祉会館」
宇部市共産党市議団との協議実施。

【山口朝鮮初中級学校への助成金停止問題】

- ① 朝鮮学校を支援する山口県ネットワークの加盟団体として、県知事（原則毎月第2水曜日）と下関市長（原則毎月第4火曜日）への要請行動に参加。
- ② ネットワークのHPと会計を引き続き担当。

【その他】

- ① ホームページの拡充検討。
- ② 会報誌『刻む会たより』発行準備。
- ③ FWの拡充を検討。
- ④ プロジェクター購入について検討。
- ⑤ 11/23（金）「石炭記念館」
「炭鉱の語り部講座 第3弾「宇部炭田を知ろう」」に委員を派遣。
- ⑥ 「反戦情報」への寄稿依頼対応。
- ⑦ 「山口の自治」への寄稿依頼対応。



会計報告（2018/09/01～2018/10/31）

【一般会計】

（円）

	科 目	年度予算	期間実績	実績累計	率	備考
歳入						
1	会費	520,000	58,000	343,000	66.0%	
2	寄付金	1,000,000	50,000	436,020	43.6%	※
3	物販	40,000	700	9,600	24.0%	
	証言・資料集	30,000	700	3,600	12.0%	
	その他	10,000	0	6,000	60.0%	
4	雑収入	5,000	3,740	3,740	74.8%	
5	前期繰越金	0	0	0		
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合 計	1,565,000	112,440	792,360	50.6%	

歳出						
1	事務費	60,000	2,154	48,502	80.8%	
2	広報費	220,000	45,710	96,645	43.9%	たより印刷送料
3	会議費	30,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	1,584	3,438	34.4%	電気代、パンフ設置
5	活動費	980,000	75,680	234,416	23.9%	
	学習会等	180,000	0	78,971	43.9%	
	追悼集会	600,000	0	0	0.0%	
	その他活動	200,000	75,680	155,445	77.7%	諸派遣費
6	他団体会費等	45,000	0	10,000	22.2%	
7	雑支出	35,000	3,000	9,800	28.0%	
	手数料	25,000	3,000	9,800	39.2%	
	その他	10,000	0	0	0.0%	
8	予備費	50,000				
9	特別会計へ繰出	135,000	0	0	0.0%	
	小 計	1,430,000	128,128	402,801	28.2%	
10	繰越金	0	-15,688	389,559		
	合 計	1,565,000	112,440	792,360	50.6%	

※ 寄付者（敬称略）

浅野 直人 石田 耕一 井上 洋子 内岡 貞雄 木原 千成 木村 英人
 久保 武智 香渡 清則 柴田 正彦 白川 猶子 竹尾 久男 田崎 敏孝
 長澤連三郎 中社 正文 成田 俊一 山県 順子 部落解放全国連8.6集会有志
 （その他匿名6名）

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,605,224				
繰入金	0		繰越金	1,605,224	
合 計	1,605,224		合 計	1,605,224	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,982,985				
繰入金	0		繰越金	1,982,985	
合 計	1,982,985		合 計	1,982,985	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

若者向けに、日本と朝鮮半島のことを考えるサロンになるよう、この名前をつけました。「マダン」は朝鮮語で「ひろば」という意味です。

長生マダン



5月に韓国プチョンと日本の中学生が交流

今年5月、韓国プチョン市の中学生との交流会に、市内に住む19名の中学生が参加しました(『刻む会たより No.69』掲載)。去る12月15日、西法寺にて、この時の中学生に呼び掛けて、5月の交流会の報告と、来年5月に企画されている、人間いきいき研究会が主催する、韓国・プチョン市への訪問の説明を行う集まりを開催したところ、5名の中学生が参加し、楽しい交流会ができました。

韓国プチョン市の子ども達との交流会は人間いきいき研究会が主催で2年に1度、訪問と受け入れを交互に行っています。「刻む会」は2年に1度の受け入れに協力しており、中高生を中心に長生炭鉱を知らせる良い機会となっています。長生マダンはそれにつながる活動として、ハングル語講座や料理教室など、今後も子ども達の意見を取り入れながら、企画していこうと考えています。



今後の行事のご案内

2019年1月19日(土) 10時～12時 場所：宇部緑橋教会
ピーヤの学習会

講師 藤永徹也 さん(炭鉱を記録する会会員/わくわく常盤会会長)

※同封のチラシをご参照ください。

2019年2月16日(土) 長生炭鉱水没事故77周年犠牲者追悼集会

第1部 11時～12時 追悼式 追悼ひろば

第2部 13時30分～ 講演会 法泉寺

※同封のチラシをご参照ください。

2019年2月20日(水) 10時～12時 第42回長生炭鉱問題解決協議会
場所：宇部市青少年会館3階視聴覚室

追悼集会に募金をお願いします！

長生炭鉱水没事故77周年犠牲者追悼集会には、韓国から14名の遺族が来日予定です。また、今回は韓国より講師に「東北アジア歴史財団韓日歴史問題研究所所長」の南相九(ナムサング)氏を招いての講演会を行います。遺骨収集に向けての活動も活発になってきています。皆様の募金が頼りです。ご協力を心からお願い申し上げます。

たより同封物

- ・追悼集会チラシ
- ・振替用紙
- ・会員募集リーフレット
- ・ピーヤの学習会チラシ

